

第21課 学校連絡

1. この課のねらい

- (1) 学校との連絡が円滑に行えるようにする一つの手掛かりとして、学校からのいろいろな通知を読んで理解する能力を付け、他人の助力を求めることができるようにする。
- (2) 家庭訪問に来た担任の先生に対して、日本の習慣に沿った適切な応対ができたり、子供の教育に関しての情報交換が行えたりするようにする。
- (3) 同じ年ごろの子供を持つ隣近所との交際を通じて、必要な場合に学校の種々の行事に関する助言を受けることができるようにする。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話一〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○今日 子供が 学校から これ もらってきたんですが。(1) ○ちょっと 分からないところが あるので、教えていただけません か。(1) ○で、どんな話を すればいいんで しょうか。(5)	○友達が いるかどうかとか、日本 語は だいじょうぶかとか、そん な話を すればいいんじゃないか しら。(6)
重 要 項 目	○家庭訪問っていうのは。(3)	○担任の先生が いらっしゃるんで すよ。(4) ○正道君の先生は 何と おっしゃ るの。(4)

(2) 準備

「家庭訪問の知らせ」のプリント（これは、できれば実際のものを用意したいが、教授者が作成してもかまわない。）や、新聞の案内記事、案内状、町内の回覧板などのいろいろな通知文を用意する。

(3) 導入

①「家庭訪問の知らせ」のプリントを学習者に示して内容理解の確認をする。「だれがいっぱしゃいいますか」「どんな話をすればいいでしょうか」「分からないところがありますか」などの質問をする。

②また、「これはだれがどこからもらってきますか」のような質問で、「あげる／もらう」の「やりもらい」の表現が理解できているかどうかを確認しておく。

(4) 練習

①「やりもらい」の表現が理解できていない場合には、まず〔1. 表現練習〕を使って十分に形の練習をする。このとき、最初から教科書どおりにやるのではなく、初めは実際にボールペンなどを教授者が学習者Aに渡して、そのAに、隣の学習者Bに対し、「先生に（から）ボールペンをいただきました」と報告させる。次に、Aが隣の学習者Bにボールペンを渡し「Aさんに（から）ボールペンをもらいました」と順に報告させる。そして、物が移動する方向ともらう相手との待遇関係を具体的に確認する形で練習する。

②その後、用意しておいたプリントなどを使って場面練習を行う。

〔会話－2〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○あ、岩本先生、いつも 正道がお世話になっております。(2) ○どうぞ お上がりください。(2) ○勉強しないで、テレビばかり 見てるんですよ。(4) ○日本語は どうでしょうか。(6) ○うちでは どうしても 中国語で話してしまうものですから。(8)	○正道君、おうちでは どうですか。(3) ○日本語も だいぶ 上手になりましたよ。(7) ○友達が たくさん できているから、心配は いりませんよ。(7)
重 要 項 目	○（お茶を出しながら）あ、先生、どうぞ。(8)	○あまり お気遣いなく。(9)

(2) 準備

できれば正座ができる畳の部屋、そうでなければ教室内に座ぶとんなどを用意して

正座ができるようにしておく、場面練習するときに便利である。お茶などの道具もあった方がよい。

(3) 導入

来客の際にはどんなあいさつをするか、またどんなもてなし方をするかを学習者に質問し、改まったあいさつの表現がどれだけ身に付いているか確認する。また、先生の家庭訪問の際の話の内容について、いろいろな意見を出させておく。

(4) 練習

①会話本文は、二つの部分に分けて練習できる。

前半（１～５）は、あいさつのところを、実際に動作を伴った練習になるように気を配る。「勉強しないで、テレビばかり見ている」の表現が十分定着していなかったら、〔２．表現練習〕を使い、「〇〇さんは最近どうですか」という質問に対して答えさせる。

②後半（６～９）の練習では、林さんの「日本語はどうでしょうか」を「算数の成績はどうでしょうか」などのように、「算数の成績」というキューを出して入れかえさせる。表現に慣れてきたら、教科書の内容にこだわらずに、子供の成績や生活についていろいろな話題を出していく。途中でお茶なども出すようにしたい。

〔会話－３〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○正道に 聞いたんですけど、先生に もらったのは この紙だけだったって 言うんです。(6)	○「下記の」って 書いてあるから、ここに あるはずなんだけれど。(5) ○じゃあ、あした もう一度 先生に 聞くように、正道君に 言ったほうが いいわね。(7)
重 要 項 目	○いつも すみません。(2) ○それが ないんです。(4)	○ええと、水泳指導の実施について、あ、プールのことね。(3)

(2) 準備

教科書（P.264）にあるような不完全な通知のプリント（例えば、遠足や社会見学、予防接種、運動会、学芸会などの通知）を数種用意する。

(3) 導入

用意しておいたプリントを使って、本文のような会話をしながら、学習者の予習の程度を確認する。また、教材のプリントを、例えば五枚配ってから、「全部で六枚あるはずなんですが、ありますか」と質問したり、「私があげたのは五枚だけですか」と聞いたりして理解度を確かめてもよい。

(4) 練習

会話本文を使ったロールプレーを行う前に、必要なら次のような練習をしておく方がよい。

- ①〔4. 表現練習〕を使って「はず」の使い方に慣れる。教授者の発話の後、「そうですね。～するはずですね」と言わせる練習もできる。
- ②「(先生) にこの (紙) をもらいました」→「(先生) にもらったのはこの (紙) です」という表現の作り方を置きかえ練習で覚えさせる。
- ③「(子供) が (あさっては学校が休みだ) と言った」→「(子供) に聞いたんですけど、(あさっては学校が休みだ) って言うんです」という変形練習もするとよい。
- ④必要ならば「やりもらい」の復習もする。

〔会話－4〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○それから、この「必ず当日の朝の健康状態……」っていう、このところは どういうことでしょうか。(1) ○じゃ、そのカードに はんこを押さないと、プールに 入れないんですね。(9)	○あ、カードはね、きっと 申込書を出すと、くれるんだと思うわ。(8)
重要項目		○で、だいじょうぶなら カードにはんこを 押して、正道君に 持って行かせればいいのよ。(6)

(2) 準備

〔会話一 3〕と同様に行う。

(3) 導入

〔会話一 3〕で用意したいろいろなプリントを一緒に読みながら、「この通知はどういう意味か分かりますか」とか、「じゃ、この『……』っていう、ここのところはということか分かりますか」という質問を出していく。また、内容に従って「申込書を出さないで参加できないんですよ」という表現なども使う。

(4) 練習

①導入で使った表現の意味が理解できないようなら、まず、第17課〔2. 表現練習〕を復習し、「この（断水）っていう、ここのところはということでしょうか」という形の練習をする。形に慣れたら、いろいろな通知文を利用して練習するとよい。

②条件の意の「と」の使い方は、〔3. 表現練習〕を使って練習するか、次のような会話形式で練習する。

A：はんこを押すとプールに入れるんだと思いますよ。

B：そうですか。はんこを押さないとプールに入れないんですね。

A：ええ。

③会話本文を一通りロールプレーで練習した後、用意したプリントを使って、意味の分らないところを学習者に質問させ、それに教授者が答えるという形で会話練習をする。

3. 文型・文法に関する参考事項

「やりもらい」の表現

「やりもらい」の表現は、「名詞(を)+あげる／もらう／くれる」(本動詞型)と「動詞+てあげる／てもらう／てくれる」(補助動詞型)の二つに分けられる。本動詞型は実際に物がやりとりされ、補助動詞型は「利益」の授受が行われるという違いがあるが、やりとりが行われる相手と発話者との関係、やりとりの方向などは共通である。

「やりもらい」の表現については、次の三つの点に注意する必要がある。

- (1) 日本語では「やりもらい」を「あげる」「もらう」「くれる」などの動詞を使って区別する。もし、学習者の母語で、二つの動詞を使って区別をしているのであれば学習者にとって「もらう」と「くれる」の区別が理解しにくくなる。「もらう」と「くれる」を理解させるには、「だれがだれに」の部分をはっきり意識させることが肝要である。

- (2) 「くれる」の特徴は、「だれに」の部分に「私」「私の家族」「私の仲間」「私の会社の人」など、常にいわゆる「内」の人がくる点にある。「あげる」「もらう」に関与する人間については、この制限はない。
- (3) 「もらう」の形では、もらう相手が機関や組織などの場合、「～に」ではなく、「～から」の形になることがある。

例 ×学校にもらう。

学校からもらう。